

# 日本人の寿命

-過去・現在・未来-

田中 周二\* 長谷川敏彦† 伊藤 憲祐‡

平成 28 年 11 月 12 日

## 1 はじめに

この研究<sup>1</sup>では、人類史的に見ても未曾有の超高齢化社会を迎える 50 年後までの日本の姿を世代別の人口コホートをを用いて明らかにする。

そのため国勢調査が最初に公表された明治 24 年 (1891 年) 以降から 2015 年までの死亡率のデータと最近、飛躍的な発展を遂げている代表的な確率論的死亡率予測モデルを使用して様々な予測結果を比較検討し、蓋然性の高いシナリオを示す。

## 2 使用データ

死亡率については、1891 年以降の生命表およびその後の政府公表の生命表を利用した。(生命表研究については山口, 南條, 重松, 小林 [1] に詳しい。) また、年齢別人口については、1920 年以降 2014 年までは政府公表データ、1920 年までと戦時中の 1944 年から 1946 年までは著者推定によるものを使用した。将来推計人口・死亡率については国立社会保障・人口問題研究所の報告書 [2] を参照した。

## 3 将来人口推計

社会保障・人口問題研究所では、5 年に一度、将来の人口を推計し公表しているが、直近の H24 年将来人口推計では、2060 年までの 3 通り (中位, 上位, 下位) の生命表とそれに基づく推計人口を提示している。<sup>2</sup>特に 75 歳以上の後期高齢者, 85 歳以上のスーパーシニア層, さらに 100 歳以上のセンチュリアンの人口増加は著しい。

---

\*発表者, 日本大学文理学部

†未来医療研究機構 代表理事

‡日本医科大学大学院医学研究科 循環器内科学分野

<sup>1</sup>科研費「経済リスクの統計学の新展開：稀な事象と再起的事象」の援助を受けている。

<sup>2</sup>それ以降, 2100 年までは 2060 年の生命表に基づき延長した表を示している。